



申29号 2022年度夏季手当等に関する緊急申し入れ 団体交渉を行う！（その4） 2022.6.10

論点 黒字後の還元について

□組合の主な主張

■会社の主な主張

□今回の交渉議論を踏まえれば、黒字実現後には高い水準で支給判断すべきである。コロナ前の年間6ヶ月以上の水準にしっかり戻すべきことを強く求める

■都度時々の要素、状況、業績をベースに期末手当は判断するもの。今後も時々の状況を適切に判断して回答する。最終回答した数字は様々な要素がプラスになるように判断した結果だ。黒字になったらという約束した趣旨ではないが、業績がしっかり回復して、業績の足取りが見えた時に同様に適切に様々な要素を勘案して判断することには変わりはない

□今後さらなる業績回復や黒字になればプラスにする判断基準を持ってしっかり判断をするのか

■適切に状況に応じて判断する。業績が回復している、今後業績がサステナブルな会社の実現に向けて取り組みが着実に動き出せば、そこを勘案して判断する

□黒字という要素を踏まえて還元する考え、姿勢があると認識した。またコロナ前の水準に戻すことは拒むものではないという認識だが、どうか

■コロナ前の水準は、その時々の議論の結果だ。数字で見た目が戻ったからその水準に戻るとは約束出来ないが、コロナの状況が戻って、平常になって力強い歩みが伴ってきた際に、貴側からの提起を否定するものではない

□赤字・コロナ禍での業績、それを理由に努力に報いきれなかった職場の努力については、業績回復時に期末手当、賃金等の判断要素に含めるべきである

■報いきれなかった努力の評価は、正直難しい。社員の受け止め方は様々なことは否定しない。会社としては、社員に頑張ってもらっていただき、様々なことが実現したり、一定の改善していることを受け止め、その時々を否定するものではないので、しっかり判断したい



□回答以降、昨日まで職場や地方集会所が開催され、そこで出された様々な意見を訴えてきた。一貫して組合員の実感として訴えているのは過去最高の働き度に賃金が追いついていない。これまでの努力を踏まえれば、基準内賃金2.3ヶ月分では低いという本音である。そこを改めて受け止めていただきたい。再考を求めたが、最終回答と回答された。今後については、今交渉を組織内で議論して判断する

■回答書の内容から、何か新たな要素を加えて議論したわけではないが、その中で課題と認識した点について議論した。特に働き度、生活実感、モチベーション、地震復旧、物価上昇、人材流出の危機感など、課題認識があった。厳しい業績がベースでも、一定の声に応える回答である。最終回答の考え方は変わらない。会社がサステナブルに成長出来るように様々な施策等を地方の議論も含めて行っている。しっかり進めつつ、その時々を適切に行っていきたい

**過去最高の働き度に賃金が追いついていない事を認識するべきだ！
黒字後の還元について、一定の労使認識は一致**